

平成15年度家庭教育子育て支援推進事業

いわてっ子 ばんざい

10歳児編



岩手県教育委員会

～ はじめに ～

小学校の中学年期には、身体能力が著しく発達し、行動が活発になります。様々なことに興味を持ち、集団の中でいろいろな活動が芽生えてくる頃です。また、自己主張が強くなったり、時には反抗することがあっても比較的素直な行動をとる時期でもあります。

しかし、この後の思春期にみられるいろいろな問題行動の芽は、跡をたどってみるとこの時期に潜んでいることが多いようです。このような時期の子どもたちの成長にとって、家庭や学校、地域社会での様々な体験が貴重な糧となります。特に家庭は、家族とのふれ合いの中で人間としての基本を学ぶ場として重要です。

しかし、近年、少子化、核家族化や男女共同参画社会の到来など、家庭を取り巻く社会状況が著しく変化する中で、家庭の役割や子育てのあり方も変わりつつあります。子育てをめぐる情報が飛び交う中で、不安を抱いたり、自信を無くしたりしている親も少なくありません。学力を高めることに偏りがちで、豊かな人間性や社会性を育む子育てが軽んじられる傾向があるように思われます。

さらに、子どもたちに必要な自然体験や地域でのふれ合い、集団遊びなど、今まで当たり前に行われていたことが影をひそめています。このような状況の下、子どもを取り巻く家庭や社会の役割について、子どもを持つ親だけではなく、社会全体が真剣に考えなければなりません。

県教育委員会では、子どもを持つ親を対象として、家庭教育資料の発行を初め、家庭教育における子育てを支援するための講座の開設、テレビ放送「いわてっ子ばんざい」や子育ての悩みについて相談を受ける「すこやかダイヤル」電話相談などの事業を展開してきました。

本冊子は、家庭教育子育て支援事業の一環として作成したもので、小学校中学年、特に10歳児を持つ親の皆さんに、心身の発達・安全、家庭生活、親としてのあり方、学校生活、社会生活について知ってもらいたい事柄を様々な視点から取り上げたものです。子どもの発達を正しく理解して子育てをするための資料として、御活用いただければ幸いです。

おわりに、本冊子の作成に当たり、執筆と編集に御協力いただきました作成委員の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成16年2月
岩手県立生涯学習推進センター
所長 中村 利之

もくじ

■ 10歳児の特徴に関すること

1	子どもの可能性	1
2	10歳の不思議	2
3	子どもの世界～ギャングエイジ～	3

■ 心と体の発達・安全に関すること

4	小さなゆとりが豊かな心を育む	4
5	心身の発達と親の対応	5
6	小児科窓口インフォメーション	6
7	発育期のスポーツ	7

■ 親としてのあり方に関すること

8	家庭が子育ての土俵	8
9	親が子どもに、子どもが親に望むこと～思いやる気持ちを大切に～	9
10	ほめること・叱ること	10
11	祖父母とのコミュニケーションのとり方	11

■ 家庭生活に関すること

12	安らぎのある家庭	12
13	今どきの生活を考え直す	13
14	しつけの重要性	14
15	役割を自覚した暮らし	15
16	子どもの問題行動と家庭	16

■ 学校生活に関すること

17	親が学校に期待すること、学校が家庭に求めること	17
18	集団生活から学ぶこと	18

■ 社会生活に関すること・その他

19	地域とのコミュニケーション	19
20	社会性を育むために	20
21	親子で一緒に～県社会教育等施設ガイド～	21
	親子で一緒に～市町村社会教育等施設ガイド～	22
22	電話相談「すこやかダイヤル」及び他の相談機関の紹介	23

■ おわりに

23	より良い子育てを願って	24
----	-------------	----

写真提供

花巻市立若葉小学校（ジャガイモづくりに取り組む子どもたち）
盛岡市立山岸小学校（PTA図書ボランティアによる読み聞かせを聴く子どもたち）（子ども同士で読み聞かせ）
北上市立黒沢尻東小学校（「オヤジの会」で着音機の説明を聞きいっている子どもたち）
山田町立大浦小学校（定置網体験で網おこしを楽しむ子どもたち）

1 子どもの可能性

子どもの現状を理解するために

私たち大人は、子どもの問題がマスコミをにぎわす度に、こんな豊かな社会なのにとか、子どもの生活がこんなに恵まれているのにとか、ため息とも愚痴ともつかぬ言葉を発してしまいます。

確かに、物質的に豊かな生活が子どもの健やかな成長・発達を保障するという見方に立てば、このようないい方が許されるようにも思います。

しかし、現実がそうでないことは、子どもの問題がこれほど社会問題化していることを見れば明らかです。とするならば、物質的な豊かさの裏側に（場合によっては引き換えに）、実は子どもの成長・発達に必要な環境・条件が奪われている（失われている）という事実が隠されているということになります。要するに、現在の子どもは、与えられるものが過剰であるだけでなく、奪われたものも多いという現実の中で生活しているのです。

与えられたものとしては、物質的な豊かさや溢れるばかりの情報、さらには勉強の目的やその実現に向けた期待・眼差しなどがあげられると思いますが、奪われたものとしては自然との関わりや仕事に代表される生活体験、広い意味での人間関係、そして遊びに不可欠な空間・時間・仲間、さらには子どもの冒険心などがあげられると思います。とりわけ問題なのは、「人は人と交わることによって人になる」という不可欠な人間関係が奪われたことではないかと思います。

つまり、現在の子どもは物質的に恵まれてはいるものの、自らの成長・発達に必要な環境・条件には必ずしも恵まれていないのではないか、という見方に立つ必要があります。

子どもの可能性を拓くために

「子どもには無限の可能性がある」「子どもの可能性を信じて」等の言葉は、よく聞かれますが、どのように受けとめるべきものなのでしょうか。

一般的には、子どもは生まれた時点で将来や獲得される能力が決まっているのではなく、その後の環境や条件との相互のやり取りによって様々な能力を獲得し、自らの将来を切り開いていく存在であるということの意味している言葉だと考えられます。同時に、そうであるからこそ、子どもの可能性を見限ったり、信じられなかったりする事の危うさをいましめる意味も含まれているのだと思います。

子どもの可能性は子ども自身が切り開いていくものであり、親ができることは、子どもの可能性を信じて、子どもの可能性を引き出すための働きかけや子どもが相互のやり取りするに相応しい環境や条件をできるだけ用意することだと思います。

少年期の子どもに即して言えば、少年期の子どもが少年らしい生活（仲間づくりや遊び、広がる興味や関心に基づいた様々な活動体験、自己肯定感や自信の獲得、冒険心やたくらみの発揮等）を実現しているのかどうか、そしてそれを支える多様で多彩な人間関係が取り結ばれているのかどうかです。親が、こうした点に配慮し、子どもに働きかけていくことが、少年期の子どもの可能性を信じていることの証であり、またそうすることが子どもの可能性を拓くことにもなるのです。

★失敗は成功のもと

「失敗は成功のもと」という言葉があります。この言葉は人間の一生に通じる言葉ですが、ギャングエイジと呼ばれる少年期やその後の思春期の子どもたちのためにある言葉のようにも感じられます。なぜならば、この時期の子どもがもっとも失敗（つまずき）を経験するからと

いうだけでなく、もっとも失敗を必要としているからです。失敗のない子どもが「よい子」と呼ばれる風潮がありますが、「よい子」を頑張るよりも、「失敗」を糧にできる子どもにこそ育てたいものです。

2
10歳の不思議

友だちとの学び合い教え合い

この時期に大切なことは、「子ども同士で学び合ったり、教え合うこと」です。

例えば、コンピュータゲームのやり方とか、カードはどここの店にたくさん置いてあるとか、カブト虫の捕り方といった、大人から見ればつまらないようなことでも良いのです。

しかし、その量は溢れるほどあり、溢れるばかりの楽しさの中で学び合う、教え合うことが大切なのです。先生をはじめ、大人から学ぶことは価値のあることで、大事なことなのですが、そればかりでは学ぶ喜びを十分に知ることができないのです。

子どもの時、大人から学ぶことで楽しかったこともありましたが、それに比べ、友だちから学ぶことは、面白く、楽しいことが多くありました。また、友だちに教えたり、自分の持っているものを相手に伝えたりすることは誇りであり、喜びだったはずで、この経験を十分にすることにより、子どもは学ぶということを知るのです。



優越感と劣等感

私たち大人は、人より勉強ができることやスポーツ等が上手になることが子どものためになると考えていませんか。

「人に負けるな」「勝て」と言い過ぎては、いないでしょうか。確かに、子ども同士競い合いながら成長する面もありますが、あまりこの面を強調し過ぎると、子どもは、自分が負けるかもしれないと思って、教え合ったり、学び合ったりしなくなります。

自分より劣っている人には優越感を持ち、自分より優れた人の前では劣等感を持ちます。すなわち、自分より劣っている人とは友だちになることを嫌います。また、優れた相手とは対等な友だち関係をつくることをいやがります。結局、友だちをつくれないうことになります。

この結果、学習は良く出来るのですが、友だちをつくれないうため、子どもたちの中に入っていけないケースもあります。ともに喜んだり、悲しんだり、といった共感的なコミュニケーションができない、あるいはクラスの中に自分の心が安定する居場所が見つからないために、クラスに入れなくなり、不登校になることもあります。

あまり競争心をかきたてることをしないで、ともに教え合ったり、学び合ったりしながら、喜びを感じさせるように配慮しましょう。

3 子どもの世界 ~ギャングエイジ~

ギャングエイジとは

「依存期」にあった子どもたちもこの時期に入ると親から徐々に離れての行動が多くなります。そして近所の遊び仲間との行動に興味を持ち、屋外での遊戯やボール遊び・自転車遊びをしたり、時にはハイキングやピクニックなど活動範囲を広げ集団で行動したりすることが多くなります。

このように集団活動を好み、徒党を組んで行動する時期をギャングエイジと言います。

ギャングエイジの中で学ぶもの

徒党を組んで行動する子どもたちは、時には悪さもあるでしょうが、様々な経験や体験を重ねながら自分たちのつくった遊びに興じます。

その遊びの中で、普段接することのできない野鳥や昆虫・種々の植物が生息する自然界の美しさや驚異にふれることができます。また、友だちの輪が広がるなかで家庭や学校では学ぶことのできない人との関わり方を学んでいきます。

様々なことをとおしてやる気が伸び、体が鍛えられ、精神的な安定や自立が期待されます。

子ども同志の遊びを通して社会性を培う

「遊びの時間」「遊びの空間」「遊びの仲間」を持った子どもたちは、これまでの遊びの経験をもとに知恵を出し合って遊びの方法と内容を見出していきます。

その中で創造性、仲間とのつき合い方、ルールの守り方、協調と共生、自己抑制力、自発性、事故防止力など多くのことを身に付けていきます。

★ギャングエイジで得たことが今後の家庭生活で生かされること

仲間集団という横のつながりで、たくましく鍛えられた子どもたちは、家庭生活においても「受け身」から「働きかけ」へと考え方も行動も変化します。

この時期は、自己主張が明確となり親子の意見の対立も生じますが、子どもの意見に十分耳を傾け、家庭のルールをつくり、責任を持って取り組ませましょう。決して、過保護・過干渉・放任にならないように気を付けたいものです。



1 小さなゆとりが豊かな心を育む

豊かな心を持つ人

豊かな心を持つ人とはどんな人なのでしょう。音楽や絵画を鑑賞する人、楽器を演奏する人、絵を描いたりする人、草花を育てる人、困っている人に優しく声をかける人など、様々な人の姿が浮かんでくるでしょう。

「豊かな心」は、「広い心」「やさしい心」「懐の深い心」という言葉と置き換えて使われることもあります。物事に対して、いろいろな角度から判断することができ、自分から積極的に関わられる気持ちを表しています。

人間関係の中では、相手の立場になって考えることができるかどうか、ということになるでしょう。時には、親切の押し売りが、余計なお世話にならないよう自分の行動を反省することも必要になるでしょう。

ただ、相手を優先することだけ考えて、自分が我慢するだけにならないようにしなければなりません。相手を傷付けることなく自分の思っていることを主張する方法も身に付けなければなりません。



まず心豊かな大人に

現代は家庭内での親子・兄弟姉妹などの人間関係が希薄になっていると言われます。また、学校や近隣の社会でも大人と子ども・友だちなど人間関係のふれ合いの場が少なくなってきました。

人との付き合い方は、放っておいても自然に身に付いてくるものではなく、機会をとらえて、身に付けさせていくものです。言葉で指導することも大切ですが、大人が身を持って行動する姿を見せていきましょう。デパート等のビルの入り口で、次に続いてくる人にドアを押さえて待ってあげる、お年寄りや赤ちゃんを連れた人に手を貸してあげるなど、大人の何気ない行動から子どもたちは何かを学習していきます。

美しいものや生命の尊さに対する豊かな心を育てることに同じことが言えます。季節の花や、空の色の変化などに気付いた時は、家族や近くにいる人に声をかけるゆとりを持てるといいですね。人それぞれに個性があるように、「豊かな心」と言っても、ひとどおりのものではありません。それぞれの子どもに「豊かな心」を育てる手助けのできる心豊かな大人になりたいものです。

★読書の楽しみ

小学校に入るまでは、親子で絵本を読む習慣があった家庭も多いと思います。子ども自身が自分で文字が読めるようになったので、今さら親が子どもに本を読み聞かせる必要はないと思うかもしれませんが、でも、もしも、お子さんが「読んで」というのなら、一緒に声に出して物語の世界を楽しみましょう。

一緒に読むばかりでなく、おすすめの本を用意してあげるのはいかがですか。また、子どもが夢中になっている本や話題になっている本を親子で読んでみましょう。子どもの気持ちを理解するのに役立つかもしれません。ご自分の子ども時代を思い出して懐かしい本を探しに、図書館に出かけてみませんか。

5 心身の発達と親の対応

10歳児の心身の成長

10歳児は思春期の前期にあたり、心身の変化が現われる時期です。身体的には、これまで男女の違いがなく成長してきた子どもが、この頃から女子の身長が急に伸び始め、中には女性らしい体つきになってくる子も見られます。それは「赤ちゃんを産む」という大切な役割があり、大人になる準備が早く始まるためです。

男子は、12歳頃から変化が現れてくるので、大人っぽい女子に対して男子は幼く見えてきます。しかし、その成長には個人差があるので、周りの人と比べる必要はありません。

こうした体の成長とともに心も変化し、お互い異性を意識するようになり、男女別々に遊ぶことが多くなったり、お互いに反発し合ったりと対立感情が目立ってくるのもこの時期です。

子どものストレス ～親には言えない心の声～

この頃から、親の言動を素直に受け入れていた子どもが、逆に反発したり秘密を持つようになってきます。これは、物事を筋道立てて考えられるようになってきたことや、自分のことは自分でやろうとする自立心が芽生えてきたことの表れでもあります。

もし家庭が、子どもに指示や命令で接することが多いと、子どもはなかなか自分の心の声を伝えることができません。

日頃から、子どもの話を受け止めて耳を傾け、安心感を与えることが大切だと思われます。

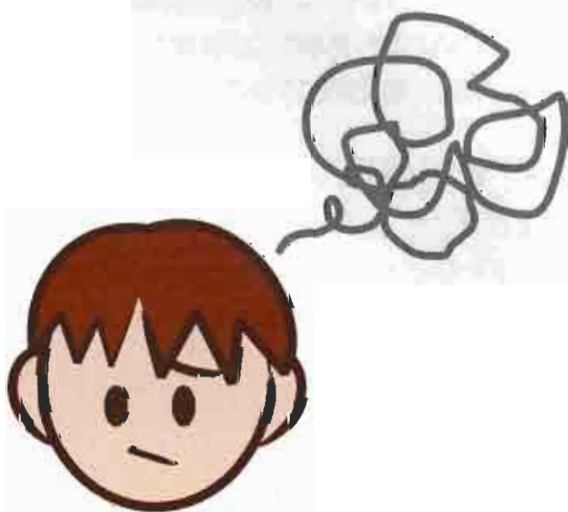
子どもたちにとって、家庭が、安心して弱音をほける場でありたいものです。

親としての心の持ち方

子どもの失敗を受け止めていますか。「ほらごらん、お母さんのいうとおりにしないからよ」などと逆に失敗を責めていませんか。

仮に「失敗したけど、今度は気を付けようね」などと受け止めてくれると、子どもは安心感の中で失敗を繰り返しながらもやり方を覚え、成功体験を重ねていきます。そして、うまくできたらほめたり、時には励ましたりすることが、子どもの意欲を育てていくことになります。

聞き上手、ほめ上手になりましょう。



★子どもの話を受け止めていますか

子どもの目を見て会話をしていますか。「嬉しいこと」「悲しいこと」「悩んでいること」こんな気持ちを相手に伝えようとする時、忙しい手をちょっと休めて向き合うと、子どもの思いが手に取るように伝わってきます。そして、話を聞いてもらえた子どもは、その満足感から心も安定してきます。

子どもが、自分の思いや考えを相手に伝えられるように、日常の会話を大切にしていきたいものです。

6 小児科窓口インフォメーション

ADHDの特徴

ADHDは注意欠陥多動性障害と言います。この障害は典型例から極軽症例まで連続しており、私たちもいろいろな程度にこの障害に見られる症状を持っています。また、この障害があるからダメだということとは全くありません。

この障害の特徴は、何をすべきか知らないのではなく、知ってはいてもしたいことでなければ、どうしても自分の気持ちをそのことに向けることができないということです。例えば、授業時間中に席を立て歩いてはいけなことはよくわかっているのですが、自分の気持ちをコントロールできず、立ち歩いてしまう。宿題をやらなければいけないことは良くわかっているのですが、どうしてもやることができないということです。逆に自分のしたいこと、興味のあることにはとても集中します。

チック症の特徴

チック症はまばたきしたり、顔をしかめたり、肩をすくめたりすることを、本人はそうしようと思っていないのに繰り返してしまう運動です。4～11歳頃に多く、12歳頃を境に少なくなります。男子に多く、10名に1名くらいの割合でチック症になっています。ですから、決してまれなものではありませんので、チックになったからといって驚かなくても良いのです。

昔は、チック症の原因はストレスと言われてきましたが、今は、チックを起こしやすい素因のある人が何らかのきっかけ（ストレス等）で発症すると考えられています。ほとんどの例は、親がチック症を気にしない、指摘しない、もしストレスがあるなら取り除いてあげることで治ります。しかし、持続する時、本人がチック症状を悩んだり、まわりからチック症状でからかわれたりしている時は、薬を使う必要があります。特に、声が出てしまうチックは音声チックまたはトゥレット障害といい治療が難しくなりますので早目に小児科・精神科を受診することをおすすめします。

ADHDの 治療と診断

この障害は研究が進んでおり、薬を服用したり、教育的な対応をすることで症状の改善がかなり得られます。下の設問の内、不注意で6項目以上、または、多動性・衝動性で6項目以上当てはまる時は、担任の先生か小児科医・精神科医に相談しましょう。

不注意

- 学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする。
- 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。
- 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる。
- 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない。
- 学習などの課題や活動を順序立てて行うことが難しい。
- 気持ちを集中させて努力し続けなければならない課題を避ける。
- 学習などの課題や活動に必要な物をなくしてしまう。
- 気が散りやすい。
- 日々の活動で忘れっぽい。

多動性

- 座っている時に手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。
- 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。
- きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする。
- 遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい。
- じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する。
- 過度にしゃべる。

衝動性

- 質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう。
- 順番を待つのが難しい。
- 他の人がしていることをさえぎったり、じやましたりする。

7 発育期のスポーツ

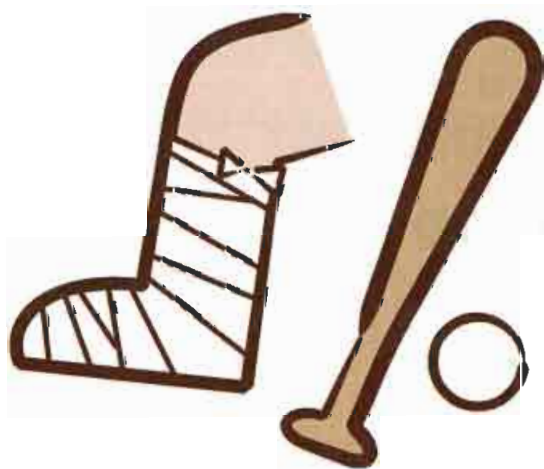
スポーツ障害

発育期にある子どもたちにとって、遊び、スポーツなどの身体運動活動は、心と体の健全な発達のために欠かせないものです。しかし、勝敗を争うスポーツでは勝つことにこだわるあまり発育期の体のしくみを無視した厳しい練習が行われている例もあり、十分に注意する必要があります。実際、医療現場では小学校中高学年の児童がスポーツ障害で受診することが少なくありません。

成長期の骨と関節の特徴

発育期（成長期）は、女子で11歳、男子で13歳くらいがそのピークとなります。特に、骨の成長において、骨端線と呼ばれる重要な部分ができあがる時期です。骨端線は、軟骨なので骨より弱く、この細胞が傷つけば将来にわたり、骨の成長が阻害され、手足の長さの違い、骨や関節の変形が起こることもあります。また、この時期の骨は長軸方向への発育が盛んであるため相対的に細く骨折も起こりやすいのです。

関節も、関節面を形成する関節軟骨は、この時期厚く柔らかいため容易に軟骨骨折が起こります。筋肉と腱も、骨の急速な成長のため、相対的に短くなっているため、そこに無理な力が繰り返しかかるような運動をすると、腱が骨に付いている部位の炎症を起こしやすいのです。



適切な運動量

障害が起きやすい時期の子どもにとって適切な運動量は、子どもによって違うため一律に決めるわけにはいきませんが、大体の目安は報告されています。小学生では、週当たりの練習時間が14時間を超えると障害の発生率は急増します。従って、この時間以内に練習時間を決める必要があります。また、スポーツ少年団のようにスポーツ活動を専門的に行う場合は週3回以内とし、その他の日は遊びや文化的な活動にあてることをおすすめします。

（臨床スポーツ医学会）

★痛みが続くとき

スポーツをした後で子どもが体の痛みを訴えることがあります。著しい時は迷わず医師の診察を受けますが、軽い時は迷うと思います。そのような時は、一晩寝た後、痛みがあるかどうかポイントです。痛みがなくなっている時は良いのですが、続いている時や痛みが増している時は、痛みが軽くても障害が起きていることがありますので、診察を受けることをおすすめします。

★診断が難しい発育期の骨折

この時期の骨折は骨膜が厚く丈夫ですが、骨自体は細いのです。このため、骨折しても若木が折れたように、外見は一見折れていないように見えますので注意が必要です。この骨折を若木骨折といい、診断が難しいものの一つです。また、軟骨の異常はエックス線に写りにくく、専門の整形外科の医師でも異常を見逃すことがあります。診断して異常がなかった場合でも痛みが続く場合はもう一度受診することをおすすめします。

8 家庭が子育ての土俵

親の役割

「子どもの望ましい成長のためには、両親がそろっていることが必要だ」と良く言われます。

しかし、単親家庭や単身赴任の増加によって、全ての子どもが両親のもとで育てられる環境を保障することは難しくなっています。

心理学者のユングは、「子どもが育っていく過程で身に付けなければならない要素として、母性原理と父性原理というものがある」とし、彼はそこで母性原理が、子どもを全面的に受け入れる・包み込むというような慈愛を示すのに対し、父性原理は、子どもの能力などを個別に評価し、物事をはっきりさせるような厳しさを示していると述べています。

一人の人間として、どちらの要素も兼ね備えていることが必要です。

親に求められる姿

従来は、女性に母性的なもの、男性に父性的なものがふさわしいと考えられていました。外で働き収入を得るのは父親、家庭内で家事や子育てを行うのは母親という性別役割がはっきりしていたので、あまり支障は無かったのです。

しかし、1970年代から結婚・出産後も仕事を続ける女性が増えてくると、職業人として、指導や責任を担う父性的な要素が女性にも求められるようになってきました。男性も同様に、家庭で共働きであれば、家事や育児を分担する必要から、母性的な要素が求められています。

求められる親の役割

そろそろ思春期に近づき自立への入り口に差しかかってきている子どもたちに、親はどのように対応したらよいのでしょうか。父性的な要素と母性的な要素をうまく身に付けさせたいものです。

望ましい親としてのあり方はどのようなものでしょうか。悪いことは絶対にだめと言い切れる強さ(父性原理)と必要な時には温かく受け止める優しさ(母性原理)を使い分ける基準を持つ必要があります。夫婦間での基準が同じであれば、誰がどの役割を取るかは家庭ごとに違ってかまいません。

子どもが育つ過程では、父親と母親が必要なのではなく、厳しさと優しさが必要なのです。厳し過ぎる両親では子どもの逃げ場がなくなり、優し過ぎる両親であれば、いつまでも自立できなくなります。子どもが自立するということは、自分自身で物事を判断し、良し悪しを決める「モノサシ」をつくり上げるということなのです。

10歳くらいになれば、家族の一員としての自分の役割なども分かっています。家族の一員として相手のことを考えながら、子どもも自分の意見を話す機会をつくりましょう。言葉にして相手に話さないと、考えていることは伝わらないものです。

育児

しごと



★親が笑えば子どもも笑う

「家に近づいた時、家族の笑い声が聞こえると一日の疲れが、スッと消えるような気がする」「仕事が忙しくなると、お父さんはかめっ面ばかりしているから、子どもたちは食事が終わるとすぐに自分の部屋に入ってしまふ」など、子どもは周りの雰囲気を感じ取り、行動します。

「家族一人の楽しいこと・嬉しいことは、

家族の人数倍になり、家族一人のつらいこと・悲しいことは、家族の人数分の一になる」と言います。言葉に出して家族に伝えることで、気分が軽くなったり、別の見方もできるようになったりすることもあります。誰もが「気持ちよく暮らしたい」と願っています。家族全員が気軽に話し合える雰囲気づくりは、親の役割です。

親が子どもに、子どもが親に望むこと

～思いやる気持ちを大切に～

親が子どもに望むこと

親は、子どもに「自分で考え、自分で選択し、自分を律して、社会生活を送れるような自立した人間」になってほしいと願いながら育てています。

そして、親の願いを実現するために、親にできることは、3つあげられます。

一つ目として、子どもが自分で選択できるように援助しましょう。例えば「あなたは、どう考えてるの」「どういうやり方がいいの」と声をかけます。

そうすることにより、子どもは気持ちや考え方を意識します。この訓練は、自立の準備に必要なのです。二者択一の要求はさげましょう。

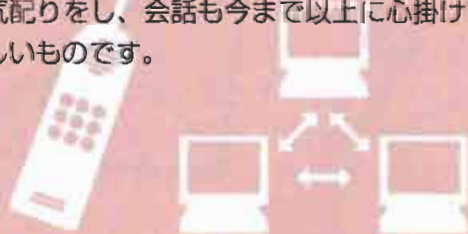
二つ目として、子どもを肯定しましょう。「スポーツができる」「勉強ができる」などの理由で大切にされるのではなく、あるがままの子どもの姿を無条件にまるごと受け入れてほしいのです。

三つ目として、子ども自身が誇りを持てるように育てましょう。二つ目にあげている受容を基準にして自信を持つようになったら、「自分は、これができるんだ。そして得意なんだ」と誇れるものを持つものです。音楽でも、スポーツでも、勉強でも何でも良いのです。基礎からしっかりと体にたたき込んだものを一つで良いから持たせたいものです。

★アンテナを高く！会話の充実を

インターネットの普及などで、子どもの交友関係や行動の範囲が広がっています。周囲には情報が氾濫し、予想もしない誘惑や危険が潜んでいます。

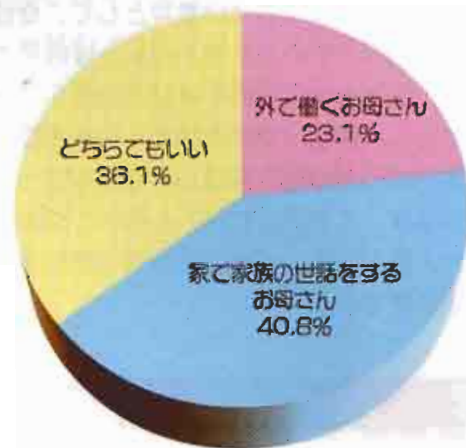
休日の外出先、お小遣いの使い方や服装、さらには、言動の変化には、これまで以上に気配りをし、会話も今まで以上に心掛けてほしいものです。



子が親に望むこと

ベネッセ教育総研(東京都)が、都内小学校の4～6年生を対象にして、調査した結果を平成15年1月に「居場所としての家族」としてまとめています。

どちらの母親がいいか(グラフ)



出典：モノグラフ・小学生ナウ VOL.22-3 居場所としての家族

みなさんの家庭はどうですか？

「家で家族の世話をする」または「外で働く」のどちらの母親がいいかという質問に対して、「家で家族の世話をするお母さん」と答えた子どもが多い結果となっています。

このようなことから、よく働き、家族を一生懸命支えてくれる親を子どもは望んでいるのではないのでしょうか。そしてこのことを感じた時に、子どもは安定感を持って育つのだと言えます。



10

ほめること・叱ること

この時期は、子どもなりに善悪はわきまえていますが、行動が先行する時期です。加えて、反抗の芽生えも見られ、親としての対応が重要となります。子どもを上手にほめる・叱ることによって、豊かな心が育まれます。ほめる・叱るは、兄弟姉妹や仲間と比較しないようにしましょう。また、行為そのものに対して行いましょう。親の考え方や態度は一貫

性が必要です。

また、正義感や理想も膨らみ「生き方」にメリハリを付ける時期でもあります。「大切なものは見えないのです。空気、心、命…」それを感じとる場所は、生活の中心「家庭（家族）」で、子育ての最終責任者は親です。ほかに誰が居るでしょう。体を張って子どもと正面から向き合しましょう。



ほめる

この時期には、ほめ方に工夫が必要です。「おめでとう」的ほめ方ではなく、行為の事実在即してその事実を認めてあげることです。人と人とのあり方はもちろん、物や環境との関わり方、集団と個の関係など、場に応じて心にしみるほめ方をしたいものです。

今の子どもの世界では、ごく普通に「当たり前のこと」をすることをからかうような風潮が見られます。そのためにも、大人は、子どもなりの葛藤を受け止めて、認めたり、注意を促したりしてあげるなどを大事にして、日々暮らしたいものです。

叱る

「七つほめて三つ叱れ」と良く言われますが、実際はその逆になりがちです。それは親の期待が大き過ぎて子どもの弱点に目がいくからでしょう。叱るとは、非人間的、反社会的行為を正すとともに、自分の短所をコントロールできる訓練でもあります。タイミングを失わないよう、人道的でない行為や命にかかわる危険なことは愛情を持って叱りましょう。

11 祖父母とのコミュニケーションのとり方

祖父母はクッション役・調整役

祖父母と一緒に暮らしている児童は、25.9%（平成12年度全国平均）となっています。地域差はあるとしても、祖父母と一緒に生活をする子どもの数は、かなり減ってきています。

子どもが幼い時には、預かってくれる、一緒に遊んでくれることを頼りにしていた祖父母ですが、教育やしつけのアドバイスをおせっかいと感じている方はいませんか？

しかし、親子だけの核家族に繰り広げられる単純で濃密な人間関係は、いったん壊れると収拾がつかなくなってしまう。祖父母はクッション役や調整役を果たしてくれることもあるのです。

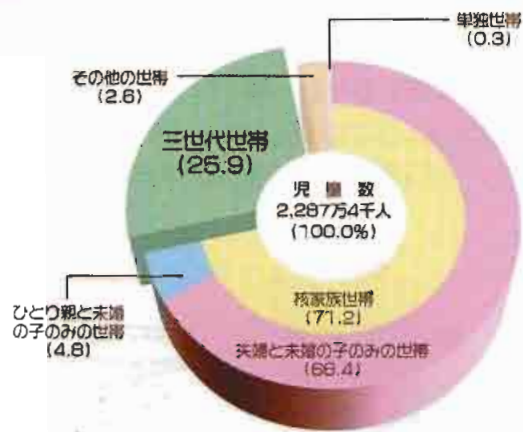
家庭は人間関係の学習の場でもあります。色々な世代の人と接することは、人間の幅を広げるためにも有効に働きます。また、子どもたちは親と祖父母のコミュニケーションをしっかりと見ていて、高齢者への接し方などを学習します。

子どもを育てる責任は親にある

従来の同居か別居か、という分け方ではなく、別居のなかに、近居（いわゆるスーブの冷めない距離）と遠居（年に数回帰省する距離）など祖父母との関係は多様化しています。電話やメールなどの情報手段の活用によって、住んでいる場所との距離だけではなく心のつながりを密にする工夫はできます。

また、毎日の生活を全く一緒にする祖父母の場合と年に数回だけ接する場合とでは、違う点があります。いずれにしても、子どもを育てる責任は親にあります。その点を理解してもらえるように話し合いをして、祖父母の意見も取り入れながら、うまく子育てすることをおすすめします。

世帯構造別児童数の構成割合



資料：厚生労働大臣官房統計情報部「平成12年度国民生活基礎調査の概況」2001



★つかず離れず コミュニケーションはさじ加減

「親友だと思い込んでいた友だちが、自分のいないところで陰口を言っているのを知って傷ついた」というのは良くある話です。

「親しき仲にも礼儀あり」は、親世代と祖父母世代の間にも当てはまることです。姑と嫁はもとをただせば他人の関係ですから、言いたいことがあっても、徹底的に言い合ってしまうことは少ないのです。

しかし、実の親子である母親と娘は、遠慮の無さから取り返しの付かない仲たがいをしてしまう場合があります。

結婚したら、家庭は別々になったということを中心にとめて、ほど良いコミュニケーションをとるのが大人のやり方ではないでしょうか？

12 安らぎのある家庭

家庭は家族の安らぎ場

家庭、それは家族みんなでつくるものです。

「家族がそろっている」「いつも洗濯された衣服を身に付けられる」「親の手づくりによる食事が食べられる」「家の中は掃除が行きとどいている」「悪いことをした時にしっかり叱ってくれる親がいる」そして、家族に笑顔があり会話がはずむような家庭は、親にとっても子どもにとっても安らぎの場となるでしょう。

親子の信頼関係

親子が共同作業や共同体験をとおり、時間を共有する中で、親子がしっかり向き合い、語り合う時間を確保したいものです。また、親が子どものころのことや仕事場でのことなど語り聞かせることも大事です。

このように親子がしっかり向き合うことにより、互いに人格と個性を認め合い、親子の絆は強くなり信頼関係も深まります。

家庭で育みたいこと・守りたいこと

親が子に贈れるものは、極論すると「働くことの尊さ」と「人間としてのモラル」ではないでしょうか。家族が集団として生活を営み、その生活をよりよいものにするためには、家族ぐるみで取り組みをする何らかのきまりが必要です。

この時期に、子ども任せにしないで徹底させたいものとして「お手伝い」「むだ遣いをしないこと」「我慢すること」「親が手本となって示す社会のルール」などがあげられます。

★子どもが幸せを感じる時は

子どもが家族の構成員として所属感や親に愛されている実感を得られた時、家族の一員として誕生したことを最高の喜びとして受けとめ、「わたしはとても幸せである」と感じ取ることでしょう。

そのような安定感を持った子どもは、自ら新しい価値を創造していくことができるでしょう。



13

今どきの生活を考え直す

親子の生活リズムの確立 ～睡眠は生活リズムの出発点～

基本的な生活習慣の中で、一日の生活の軸となっているのが「睡眠」と言われます。睡眠時間が一定せず、起床時刻がまちまちになると、その後に続く生活習慣が順序良く行えなくなってしまいます。

また、子どもにとって睡眠は、体の疲れをとるだけでなく、成長ホルモンが分泌される大事な時間でもあります。ですから、子どもには大人よりも長い睡眠時間が必要なのです。

ところが、大人の生活が夜型になってきた影響を受け、子どもの就寝時刻が遅くなっている家庭が増えてきています。

10歳児には、1日10時間くらいの睡眠時間は必要です。十分確保できるように、一日の生活リズムについて親子で話し合ってみましょう。

家庭料理 ～子どもと食事～

食事は体をつくり、一生を支える土台です。今はお金さえあれば、自分で好きなものを好きなだけ買って食べることができるようになりました。これでは子どもの健全な心身の発育を考えると将来へ不安が残ります。栄養のバランスのとれた食事を考えましょう。

また、親子で同じ時間に同じメニューをとることで、子どもに家族の一員としての一体感が生まれます。親の仕事の都合等で、なかなか難しい場合も考えられますが、それぞれの家庭で食事のあり方や、一家だんらんについて考えてみましょう。



夜遊びや長時間のテレビ視聴等の見直し ～テレビとの上手な付き合い方～

家の中ではBGMのようにテレビがついていて、見始めるといつまでも見てしまいやすい状況になっていませんか？また、極端に暴力的な場面や露骨な性描写が盛り込まれたものを子どもも見ているようなことはありませんか？

「見せない」ことを親が判断することも必要です。一方、「見せたい」番組と一緒に見て、その内容を話題にしてコミュニケーションを深めるというのもテレビとの上手な付き合い方と言えるでしょう。

ゲームのやりすぎ

コンピュータやファミコン等のゲームは、個人的で視覚優先の遊びと言えます。一人で何時間でも遊びを続けることができます。都合が悪くなれば、何度でもリセットすることができます。画面からは鮮やかな色彩と光が提供され続けます。

ゲームにのめり込むと、「人間関係をつくる力や相手を思いやる心が育たない」「仮想と現実の区別がつかない」など、子どもの心の成長に影を落としかねません。また、ゲームが原因と思われる視力低下も問題になっています。

親子でゲームのやり方について話し合い、家庭のルールとして約束ごとを決めましょう。

★しつけは繰り返し、繰り返し！

一日は、「おはよう」のあいさつから始まり、朝食、洗顔、排便…と、毎日同じことのくり返しが大切です。つまり、基本的な生活習慣を付けることが大切です。

あたりまえのことですが、私たちが健康に生きるにはとても大切な習慣です。特に子どもの頃から、きちんと身に付けておくことは、その子の生涯に良い影響を与えられると言われます。

家庭においては、まず親が手本を示していきましょう。

15 役割を自覚した暮らし

家族の一員として！

コマ切れない手伝いではなく、家族の一員としての家事分担は、とても大切なことです。

毎日、継続してトイレやお風呂の掃除をしている小学生も多く見られます。少子化時代ですが、我が子を「下宿人」にしない賢明な親が増えています。

生きる力は体験から

物やあり余る情報に恵まれ、今日ほど便利な時代はなかったでしょう。しかし、真に便利、快適さを感じるのはひもじい時代を経てきた人たちだけで、生まれた時から、溢れる豊かさの中で育った今の子どもは、ありがたさや感謝の心は希薄です。

子どもを学校の勉強ばかりの専門家にはしてはいませんか。せっかく一緒に暮らしているのですから、分相応の家事分担を行い、五感を使った暮らしを意図的に仕向けたいものです。又、興味を持つスポーツや郷土芸能などに継続的に関わらせ、子どもなりに取り組ませましょう。

自分の心をコントロールする

この頃の子どもたちは、放っておくと「メディア漬」になると言われています。特に長時間にわたるテレビ視聴は、子どもの正常な発達を歪める危険が多いと指摘されています。「我が家の方針」をしっかり立て、視聴する番組や時間を決めるようにしましょう。

当然、親の姿勢も問われ、「どんな時間にどんな番組をどんな姿で見ているか」が大切です。子どもは親の後ろ姿を見えています。

目まぐるしい情報化社会の中、情報の選択や処理は、待ったなしの日常的課題です。このことに対し、自分の心をコントロールできる子どもに育てたいものです。



ワンポイントその1

テレビは番組の視聴時間を決めて、家族みんなで見える番組は…など「我が家のテレビマップ」はできていますか？



ワンポイントその2

「〇〇〇君がいないと我が家は困る」「僕も役立っているぞ」と言う家の中の雰囲気はできていますか？



ワンポイントその3

テレビやゲーム機に子守りをさせてはいませんか？

16

子どもの問題行動と家庭

問題行動は母親ひとりの責任ではない

問題行動には、授業中に騒ぐ、暴力をふるう行為など、学校や社会の決まりが守れず他の人に迷惑をかける行動と、不登校や友人関係をつくれないう言った非社会的行動があります。

子どもに問題が生じると親、特に母親の責任と見なされやすいのですが、母親の養育の問題には夫や姑などの家族関係や子どもの学校環境および社会環境が複雑に関わっています。どんなケースであっても単に母親だけが悪いということがあるはずがありません。問題のある子どもを抱える母親は、そのことで悩み病気になることがあります。その上、夫や世間から責められては、生きていくことも、問題を解決する勇気を持つことも難しくなります。母親一人の責任にしないようにしましょう。

子どもの問題行動の原因

子どもが様々な問題行動を示すのは、親の育て方が悪いためだとか、学校でいじめがあるからだと言った、心の問題が原因であると考えがちです。

しかし、子どもの問題行動の多くは心の問題だけではなく、むしろ生まれながらの、脳の発達障害、行動発達障害が関与しているという考え方が主流となっています。

例えば、ある事件では、容疑者少年がある種の自閉症という発達障害であったことが明らかになっています。従って、問題行動が生じた場合、発達障害、行動発達障害があるかもしれないと考える必要があります。

発達障害、行動発達障害とは

発達障害でよく知られているのは自閉症ですが、この中には、高機能自閉症といって症状が軽いため、専門家でなければ診断が難しいものもあります。

行動発達障害の中には最近話題になっているものに注意欠陥多動性障害があります。もしこのような障害があれば、この生まれながらのハンディキャップは、身体障害と違い、目に見えない分、誤解を受けやすいのです。足の悪い人になぜ普通に走れないのかと責める人はいませんが、発達障害、行動発達障害の人にその障害を知らずに責めているかも知れないのです。問題行動が生じた場合、悩む前に医療機関（小児科、精神科）に相談しましょう。もし、このような障害が問題行動の原因であれば、指導や矯正などでは真の解決にはならず、医学的な治療が必要となります。

★薬物療法

わが国では、親や学校の先生方に、子どもの心の問題に薬を使うことに対する強い抵抗があるようです。しかし、薬が大変有効である障害もたくさんありますので、必要な場合は医師と相談しましょう。



17

親が学校に期待すること・学校が家庭に求めること

親の願い

子を思う親の心は「這えば立て、立てば歩めの親心」とは、昔から言われてきたことですが、いつの時代にもあてはまります。

この時期になると親も我が子が楽しい学校生活を送れることを願い、先生への期待が大きくなっていきます。「子どもに優しくしてほしい」「子どもの気持ちをわかってほしい」「丁寧にわかりやすく教えてほしい」「子どもと遊んでほしい」など様々です。

特に、日常の学校生活を送る中で、望まれることは、子どもと先生のよいコミュニケーションづくりです。お互いに信頼し合える関係が求められています。子どもは、様々な経験、失敗等をとおして成長していきます。失敗した時、先生は子どもの手をにぎり、よく話を聞いてあげる姿勢が求められます。親は温かいコミュニケーションを望んでいます。

このように、学校への期待の多くは直接指導にあたる先生に集まっています。

親としての心構え

親としては、周囲の情報に振り回されることなく、我が子の成長、発達の状態をできるだけ客観的にとらえて、学校との連絡を密にすることが何よりも大切なことです。子どもの行動に心配なことが見えた時は、ひとりで悩んでいないで行動することが大切です。

学校、担任を信頼してすぐ相談しましょう。秘密は必ず守られます。いつでも何度でもすぐに相談をしましょう。親と担任の間の信頼の絆が悩みを解決に導き、子どもの成長に良い結果を生み出します。

学校教育への積極的な参加を示すことによって、親が学校に期待するものを実現していくことができます。

★子どもの前での担任批判は百害あって一利なし

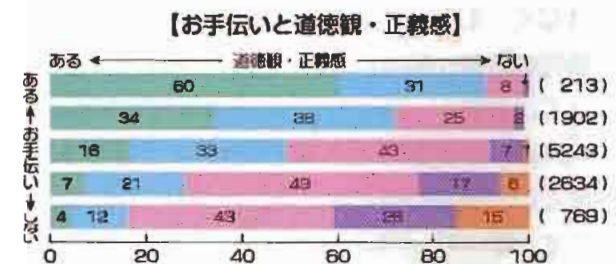
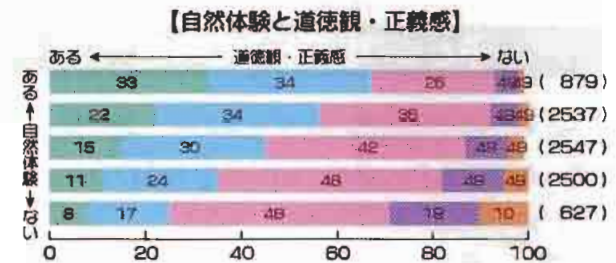
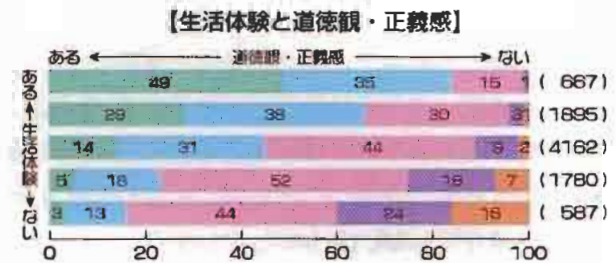
子どもの前で担任を批判していませんか？担任を批判することは子どもの担任への信頼を失わせます。担任と子ども間にお互いの信頼がないところに教育は成り立ちません。

親と子ども、先生と子ども、親と先生との信頼の絆を太く結びましょう。

学校の願い

低学年では基本的な生活習慣を身に付けることを主眼としていますが、この頃の子どもは親から徐々に離れ、行動範囲が広がります。集団での行動も多くなります。時には問題行動等も生じてきます。

平成10年に文部省が行った「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」において、子どもたちが「生活体験」「自然体験」「お手伝い」をしていることと、「道徳観、正義感」が身に付いていることとの関係を調べたところ、結果は次のとおりでした。



出典：平成11年6月 生涯学習審議会
「生活体験・自然体験が日本の子どもを大きく育てる」

上記のグラフでは、それぞれの体験が多いほど「道徳観、正義感」が身に付いているという結果となっています。自然体験、生活体験やお手伝いは子どもたちの心の成長には欠かせないものです。

家庭や地域で子どもたちに体験の機会を多く作り、時には親も一緒に参加して、子どもたちのより良い成長を見守りたいものです。

18 集団生活から学ぶこと

友だちとの遊び

子どもにとって「遊び」は、生きることを学び、生きる力を身に付けるものです。

子どもたちは、友だちと遊ぶことによって、人との関わり方を学んでいきます。友だちと力を合わせる、自己主張すること、我慢すること、仲直りすることなどは、やがて、人間関係を築くための土台になります。

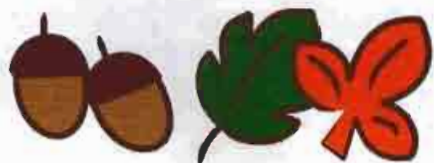
自然の中での遊び

自然の中で、体を動かして遊ぶことで、子どもは多くのことを学びます。

新しい体験をし、周囲の物事についての知識を得、理解を深めます。様々なものの性質や法則を直接肌で感じ、体得することは、想像力を培う土壌づくりになっています。

また、驚きや感動を体験することは、豊かな感性や自然を大切にしようとする心も育てます。

屋内での遊びが増えて、自然の中で遊ぶことが少なくなっています。子どもを自然の中へ連れ出し、自然とふれ合う楽しさに気付かせましょう。



友だちとのぶつかり合い

集団の中で、子どもたちの活動では、自分が強い立場になる時もあれば、その逆の時もあります。大失敗もあれば、大成功もあります。さらには、けんかをしたり、いがみ合ったり、泣いたり、慰め合ったりすることもあります。

子どもの時だからこそできる、殻を突き破った心のぶつかり合い。その中で、子どもは、「自分」というものを認識していくと言われています。

いじめについて

この時期の子どもたちは、友だちのことが気になり、徒党を組みたがります。仲の良い子と徒党を組むということは、異質なものを、気が合わないものは排除するという形でのいじめが生まれてくるとも言えます。

子どもがいじめられていることに気づいた時には、担任に相談するなど早めに対処しましょう。同時に、大騒ぎをせず家族の会話を多く持ち、安らぎの場を与えることも大切です。

子どもがいじめを行っていることに気付いた時には、それが人間として恥ずかしい行為であることをしっかり教える責任があります。また、子どもが劣等感や不満を持たないように温かい雰囲気の中で育てるなど、心の環境づくりをしましょう。



★集団生活への適応

この時期、子どもたちは親や教師など大人への依存から抜け出し、独立した自立への世界をつくりだしていこうとします。

不安を抱えつつ、大人から心理的に離乳するプロセスを支え合う友だちとして、同年代の仲間の持つ意味合いは、はかりしれません。

そうした同士を得られる仲間づくり、人付き合いの仕方この頃、その基礎が養われると言われます。

人間関係がうまくいくように大人が配慮や援助をすることは、とても重要な意味があります。

19 地域とのコミュニケーション

地域は子どもの生活空間

地域は、子どもにとって、大切な生活の場です。その中で、子どもは、地域の人たちや、自然、物事とふれ合う体験をとおして、自分自身をつくりあげていきます。

特に、今求められている「生きる力」の基となる「豊かな心」は、様々な体験活動によって育まれるとされています。

地域は、人・自然・物とのコミュニケーションを図ることのできる多様な体験活動の素材の宝庫です。

地域活動への参加

これから先、ともに協力し合い、助け合う「地球の結い」が一層大切になってきます。将来、その地域を担うのは、地域に生まれ育っている子どもたちです。

そのためにも、子どもたちが自ら地域の活動に参加することをおして、地域への親愛の心や誇り、そして自信を育むことが大切です。

また、年の異なる子どもたちや地域の大人と一緒に、行う活動の中で、社会性、協調性、思いやりの心などを育むことができます。

この時期に、地域活動に参加して育まれた地域に対する思いは、子どもにとって一生涯のものとなることでしょう。

近所との付き合い

今日、少子・高齢化が一層進み、深刻な問題となっています。

しかし、このことを前向きに考えれば、集団での活動が活発になるこの時期の子どもたちを見守る子育ての大先輩が、地域にはたくさんいるということになります。

この「地域の子ども」として見守る環境づくりの第一歩は、日頃からの近所付き合いです。

積極的に子どもたちを地域に出して、近所・地域の人たちとのコミュニケーションを多く持つように心がけたいものです。

★地域で体験させていますか？

- いわゆる「用足し」を積極的にさせ、近隣社会との交わりを体験させていますか。
- 我が子が他の人に挨拶をしたり、親切に接している姿を目にしたことがありますか。
- 失敗した時、あいまいにせず、その子どもなりに、責任を感じさせ、解決の手助けをしていますか。
- 地域の祭りなどの行事に家族揃って参加していますか。



20 社会性を育むために

社会のルール

この時期は、子どもたち同士で行動することが多くなります。また、その範囲も広がっていきます。

その中で、子どもたちは、その集団の一員として、また地域の人たちとのふれ合いをとおして、社会のルールを学び、大きく成長します。

しかし、その基となるのは、家庭における礼儀やルールです。家庭で身に付けた礼儀やルールが、地域という生活の場で生かすことができ、初めて「身に付いた」と言えます。

公共の場で大人の態度

バスや電車の公共交通機関、公民館・図書館・ホールなどの公共施設を利用することは、まわりの人たちの気持ちを考えながら公共性を育む貴重な場となります。

また、友だち同士で公共交通機関や公共施設などを利用し始めるのも、この時期です。

子どもだけでも公共のマナーを守って利用できることを念頭において、親自身が手本となるのが大切です。

善悪の判断

まだ、成長過程の途中にあるこの年頃の子どもたちは、時としてよく考えず行動してしまい、まわりに迷惑をかけてしまうことがあります。

また、自己中心に物事を考えることが残っている時期でもあり、他人の心を傷つけることもあります。

しかし、徐々に視野が広がり、その中で自分自身をつくりあげる時期に差しかかっています。

この時期に、時には心から叱り、時には心からほめることをとおして、善悪の判断力を付けさせることは、親の大切な役目です。

情報の上手な活用を

近年、テレビ、インターネット、携帯電話等のマスメディアの発達により、子どもたちは、たくさんの情報を手にすることができます。

そして、自宅にいながらにして、疑似体験ができたり、豊富な知識を得ることができたり、余暇を楽しんだりすることが可能となってきました。

しかし、その全ての情報が正しい情報とは限らなかつたり、子どもの成長に悪影響を及ぼしたりする情報もあります。また、使い方によっては他人に迷惑をかけることがあります。

たくさんの情報の中から必要な情報を選ぶことが大切ですし、見た後に感じたことを親子で話し合う中で、マスメディアとの付き合い方をともに考えていく必要があります。

★子どもは親の鏡

「子どもは親の鏡」と良く言われます。子どもにとって、一番身近で、最も信頼できる大人は親です。そのため、親の姿を手本にしながらか子どもは育っていきます。

親はあまり気にしていなくても、子どもはいつも親の後ろ姿を見ているものです。



21 親子で一緒に ~県社会教育等施設ガイド~



子どもの森

岩手県内には、親子で自然や文化を体験できる施設や楽しみながら体を動かすことのできる施設があります。親子で、近所で、子ども会で、お互いのコミュニケーションを深めるために、施設に出かけてみませんか。

岩手県立博物館

岩手県の自然や文化についての資料がたくさん展示されている総合博物館です。毎週日曜日には「みんなのためそう体験教室」が開かれています。ここでは、昔の暮らしや遊び、ものづくりを体験することができます。

住所 盛岡市上田松屋敷34
TEL 019-661-2831

岩手県立児童子どもの森

奥中山の美しいブナの林に囲まれた施設で、さまざまな遊びから驚きと出会いをはくむ体験型の児童館です。「ハローハウス」などの屋内施設とキャンプ場や「水の広場」などの屋外施設があり、親子で楽しみながらゆったりとすごすことができます。

住所 一戸町奥中山字西田子1468-2
TEL 0195-35-3888

銀河の森ステラパル

~岩手県立県北青少年の家~

野外体験活動はもちろん、プラネタリウムとスケート場の設備もあり、多様な活動ができます。野外活動の「わんぱく広場」やプラネタリウム鑑賞「プラネ星空コンサート」、スケート場を活用した各種事業は、子どもから大人まで楽しめます。

住所 二戸市仁左平字放森61-3
TEL 0195-23-9511

岩手県立図書館

平成15年10月から「図書情報システム」を導入し、ご家庭のパソコンから図書検索や予約手続きも簡単にできます。図書や紙芝居、ビデオ等の貸し出しのほか、「お話し会」や「映画会」などの催し物もあります。

住所 盛岡市内丸1-50
TEL 019-624-2515

岩手県立水産科学館

陸中海岸国立公園を望む、海や水産業等について学習できる科学館です。砂浜生物観察会やカラー魚拓講習会など、体験を通して海や海の生物について、楽しく学ぶことができます。

住所 宮古市日立浜町33-28
TEL 0193-63-5353

岩手県立美術館

郷土の作家の作品を中心に収集展示しているほか、様々な企画展や講演会、ワークショップ、コンサートといった美術に親しむためのイベントを開催しています。夏休みや冬休みには小中学生を対象とした楽しいイベントがあります。

住所 盛岡市本宮字松崎12-3
TEL 019-658-1711

マリノランド陸中

~岩手県立陸中海岸青少年の家~

海の子ほにある施設で、「海釣の道場」や「家族ふれあい塾」等、親子で海という自然を満喫することができます。また、「わくわくサタデー」や「陸山トレッキング」等の野外体験活動も行行うことができます。

住所 山田町船越2-42
TEL 0193-84-3311

岩手県立花巻野外活動センター

豊沢の豊かな自然に囲まれた施設です。昆虫採集や標本づくり、川遊びなどを行うことができる「ふれあいキャンプ」は、夏休みに開催されています。家族で気軽にキャンプを楽しめます。

住所 花巻市豊沢字桂沢8
TEL 0198-25-2140

岩手県立福祉の里センター (岩手県地域介護研究・普及センター)

障害をお持ちの方や高齢者の方を始め、一般の方々にも利用いただける施設です。社会福祉体験やキャップハンディ体験はもちろんのこと、ニュースポーツ体験もできます。

住所 大船渡市立権町字田ノ上30-20
TEL 0192-27-0294

岩手県立農業ふれあい公園

農業の歴史を学ぶことのできる「れきし館」や現代の農業をクイズや「ブムゲーム」で楽しく学習できる「かがく館」があります。また、かわりに自然に親しむことのできる農業ふれあい公園もあります。

住所 北上市飯盛3-110
TEL 0197-68-3975

緑のキャンパス

~岩手県立県南青少年の家~

豊かな川と緑をステージに体験活動を通して、新しい発見ができます。特に「かがるがも親子体験教室」は、自然体験活動を通して、親子のふれあいや親同士の交流を深めることができると好評です。

住所 金ヶ崎町沢下窪49-1
TEL 0197-44-2124

岩手県立高田松原野外活動センター

高田松原海岸の近くにある施設で、「親子ふれあいキャンプin高田」や「親子捜索活動の集い」等親子対象事業を行っています。また、親子で「カヤック教室」に参加し、海洋体験の楽しさをともに味わってみてはいかがでしょうか。

住所 陸前高田市気仙町字砂碓151
TEL 0192-54-5515



親子で一緒に ～市町村社会教育等施設ガイド～

市町村	施設名	特徴	問い合わせ
福岡市	福岡市立区立児童少年自然の家	自然体験活動を通じて、区界自然の安楽に親子一緒にふれ合うことができます。	0193-77-2046
	福岡市こども科学館	見てふれて科学への興味を深めることができます。四季折々の観察もプログラムの一つです。	0193-634-1171
	福岡市動物公園	いろいろな動物を見ることができ、体系的な観察も開催しています。	019-654-6266
	都府ついで森	キャンプ場、アスレチックなどがあり、森林散策で自然を感じることができます。木工体験もできます。	019-638-2270
糟石町	糟石町営クロスカントリースキー場	冬はクロスカントリースキー、夏はマウンテンバイクで親子一緒に汗を流すことができます。	019-659-2211
糟谷町	くすまき高原牧場	搾乳、羊の毛刈り、子羊の世話など、多種多様な農業体験ができます。	0195-66-0211
	森と農のがっこう上野川	森と農とを結びつけた施設で、環境教育を行っています。毎月1回ワークショップを開催しています。	0195-66-0646
溝沢村	溝沢村歴史文化財センター	歴史文化財の展示のほか、伝統化石発掘体験や漆が玉取づく等の体験講座も開催しています。	019-694-9001
花巻市	宮沢賢治記念館	宮沢賢治の世界を紹介しており、毎月第2土曜日にはお楽しみ会も開催しています。	0198-31-2318
	宮沢賢治博物館	賢治の著作の世界で楽しく遊ぼう「楽園」ができます。	0198-31-2211
大迫町	大迫町立山岳博物館	全国的にも珍しい山岳の博物館で、早湯の自然や高山植物について学習できます。	0198-48-3020
石巻市	農業伝承館	農業に関する資料の展示や農具体験などの体験活動ができます。	0196-45-6566
東和町	東和海洋センター	カヌーやヨットなどの貸し出しを行っています。	0189-44-6336
	田沼湖ふり公園	釣りやじゃぶじゃぶ池、森林浴、遊歩道体験等、多様な体験を親子で味わえます。	0186-44-5007
北上市	日本現代詩歌文学館	詩歌の楽しさを子どもたちに味わってもらおうための子ども向け詩歌コーナーもあります。	0197-65-1728
黒田町	長瀬公園キャンプ場	キャンプ場やバンガローのほか、丸太遊樂のサーキットコースもあります。	0197-82-3021
氷沢市	ふれあいの丘公園	総合体育館（エアリーナ）を中心に各種スポーツ施設や人工芝グラウンド、ジャブジャブ池があり、家族連れに人気があります。	0197-22-7000
金ヶ崎町	千歳森林公園	キャンプやアウトドアスポーツを楽しむことができます。木工加工施設で体験もできます。	0197-43-2845
黒沢町	ひめかや健康の森	ひめかやの学校、どんぐり倶楽部、コカニナ倶楽部、黒沢の自然を体験することができます。	0197-49-2105
黒沢町	黒沢町立牛の博物館	牛に関する資料展示のほか、牛乳を使ったバターやアイスクリーム作り等の体験学習もできます。	0197-56-7866
江刺市	えさし郷土文化館	江刺の歴史と歴史・文化資料を展示しているほか、そば打ちや焼酎、さきづり等の体験もできます。	0197-31-1600
一関市	種山高原自然の家	キャンプ場があり、種山高原の自然はもちろん、星空の美しさも味わうことができます。	0197-38-2385
	いちのせき自然の家	自然の自然を生かした体験活動や野鳥観察、創作活動等、様々な自然体験学習ができます。	0191-99-2020
	一関総合体育館（コートーム）	キッズルームで自由遊びができます。屋外にはアスレチック広場や水遊びができるジャブジャブ池もあります。	0191-31-3111
一関市	一関博物館	一関地方の歴史を学習することができます。クイズ等で楽しみながら和紙について学習することもできます。	0191-29-3180
	アストロロマン大塚	キャンプ場の海、フィールドアスレチックやマウンテンバイクコース、トランスボルダリング等、「ふるさと分校」も含め各種体験学習コースもあります。	0191-72-2860
栗山町	石と賢治のミュージアム	宮沢賢治が晩年技術として働いた旧東北砕石工場を中心に「石っこ賢治さん」をテーマに、科学に関する体験学習も行われています。	0191-47-3955
室根村	きらら観察山荘	1000m級の展望台とY50m級の展望式テラス展望台で昼夜問わず星空観察が可能です。	0191-64-2700

市町村	施設名	特徴	問い合わせ
大迫町	大迫町立三輪BSG海洋センター	25m6コースのプール、体育アリーナ、総合グラウンドがある。各種のスポーツレクリエーションが楽しめます。	0192-42-3201
陸奥市	海と川のミュージアム	4つのテーマ別の館で海と川について楽しく学習することができます。実験に海の生き物にふれあうことのできるコースもあります。	0192-64-5520
住田町	種山ヶ原森林公園	宮沢賢治がよなく愛した種山ヶ原の雄大な自然の散策ができます。	0197-38-2323
宮守村	寺沢高原	バンガローあり、キャンプもできます。	0198-67-2111
釜石市	釜石市立歴史博物館	数に関する歴史資料の展示や音と映像による体験シアターで楽しみながら学習ができます。	0193-24-2211
	釜石市営プール	屋外プールと屋内プールがあり、四季を通じて利用できるプールです。	0193-22-3190
宮古市	宮古市野外活動センター	豊かな自然に囲まれたキャンプ場で、フィールドアスレチックの他、スケート場もあります。	0193-64-8054
	リアスハーバー宮古	ヨットやシーカヤック等マリンスポーツが体験することができます。	0193-71-1120
山田町	鮎と海の科学館	3D立体シアターや展示資料により三種の海産物の漁獲やマッコウクジラの生態を学習できます。海産物調理体験もできます。	0193-84-3985
	船越郷旅行村	キャンプ場やアスレチック、芝生公園の他、交流のあるオランダの風情を味わえるチューリップ園や風車もあります。	0193-84-2182
新田村	多目的運動場こころ	釣りもできるオートキャンプ場。近くには、ゆったり遊、リバーパーク、多目的運動場こころ等もあります。	0193-73-3811
川井村	美術造形工芸館	地域の特色の木材、漆、アワビ貝を使って、木工品などを制作することができます。	0193-74-2222
岩手県	ふれあいらんど岩手	オートキャンプ場の他に体験講座、ロックガーデンなどもあり、ゆっくり過ごすことができます。	0194-22-5211
田野郡	マレットカントリーパーク	18ホールコースでマレットゴルフが楽しめます。園には、キャンプ場もあります。	0194-33-2816
久慈市	もぐらんぼ	珍しい動物たちが暮らす神秘的な海の世界を体験することができます。	0194-53-9600
	久慈総合博物館	国内唯一の雄略門の博物館で、久慈地方と世界の歴史について多くの資料が展示されています。	0194-59-3821
横手町	横手町BSG海洋センター	カヌー、ヨット、ドラゴンボード、ウェイクボード等のマリンスポーツを体験することができます。	0194-65-4715
野田村	アジア民俗形鑑	日本初のアジア民俗展示施設。アジアの人々の暮らしについて学習することができます。	0194-78-3252
大野村	おののキャンパス	水、陶芸、ガラス、敷き紙体験や動物とのふれあい、農業体験ができます。	0194-77-3202
二戸市	二戸市ショッピングセンター	多様な機能を持つ市民交流センターで、特に「田中健策記念科学館」では28のプログラムによる実験工作を体験することもできます。	0195-25-5411
二戸市	折川森林公園	折川森林公園の自然の博物館で、セミボタルの観察やそば打ち体験ができます。	0195-23-1005
一戸町	源野郷文化博物館	縄文時代の土器作りや縄文陶器体験、アクセサリーづくりなどの伝統文化を学習できます。	0195-32-2652
浄法寺町	浄法寺	浄法寺の行燈が見学でき、湯の湯付は体験もできます。	0195-38-2611
野田町	三ッ池公園	そば打ち体験ができ、雑穀のことがわかる資料館があります。	0195-47-1452
九戸町	コロポックルランド	東北唯一のBMC公園コースや遊具広場、ユニークな遊具施設があります。	0195-42-4062

ここに紹介した施設はほんの一部です。各市町村には、親子でふれ合いを深めることができる施設がたくさんあります。また、各市町村の公民館や図書館等でも親子で共同体験できる事業がたくさんあります。詳しくは、各市町村やお近くの子どもセンターにお問い合わせください。

電話相談「すこやかダイヤル」及び他の相談機関の紹介

子育ては様々なことを教えてくれます。子どもの成長の素晴らしさを感じた時には最高の喜びでもあります。しかし、子どもにはそれぞれ個性の違いがあり、個人差もあります。個性は成長とともに多様になり、時には心配事にもなったりします。

そんな時は、「すこやかダイヤル」にお電話ください。一緒に解決の方法を探していきましょう。

また、その他の相談機関もあります。

Q 小学校3年生の男子のしつけについて

この頃、テレビのまねをして乱暴な言葉遣いをしたり、勝手な行動が多く見られるようになり、つい叱ってしまうことが多くなりました。

学年があがると段々に落ち着いてくると思っていたのですが？

すこやかダイヤル相談事例

A この時期の子どもは、ギャングエイジとも言われ、徐々に親から離れての行動が多くなり、活動範囲も広がってきます。集団での行動、仲間との関わりの中での活動も増えてきます。子どもさんに変化が見られたことは、

- 順調に成長している証です。
- 他との関わりが増えてくると同時に問題も感じてくるはずですよ。
- 過干渉にならずに子どもの出すサインをしっかり受けとめ、話を聞いてあげましょう。

一生の中でも、とても大事な時期です。叱るのではなく、基本的な生活習慣をしっかり身に付けさせ、そして善悪の判断もきちんと教えましょう。

家庭教育に関する相談

「すこやかダイヤル」

岩手県立生涯学習推進センター
0198-27-2134
(平日 10:00~17:00)

上記以外は
FAX・留守番電話対応

学業・進路・教育等に関する相談

「ふれあい電話相談」

岩手県教育委員会学校教育課
019-625-3715
(月~金 8:30~17:00)

岩手県立総合教育センター
0198-27-2331
(月~金 9:00~16:00)

子どもの人権・いじめに関する相談

「いじめ110番」

各地方方法務局
盛岡 019-626-2655
遠野 0198-62-2822
一関 0191-23-4149
宮古 0193-62-2337
二戸 0195-25-4811
水沢 0197-24-0511
(月~金 8:30~17:00)

23

より良い子育てを願って

子どもの成長を願わない親はいません。日々、親として考えなければならぬことやできることについて、これまで述べてきました。

少年期の子どもは、親や家族から離れ、関心領域そして活動領域を広げていく時期でもあります。そうした特徴を踏まえ、特に子育てに重要な二つのことをあげておきたいと思います。

一つ目は、子どもにとって安心で、信頼できる親子関係や家族関係を築いて欲しいということです。安心や信頼があればこそ、子どもは活動領域を大胆に広げ、また何かに夢中になって取り組むことができるのです。

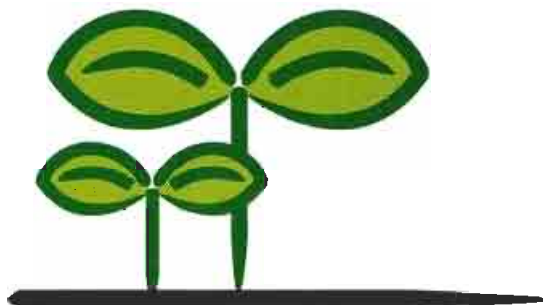
しかし、現実には子どもの将来を心配する余り、つつい安心よりも不安を与えてしまったり、信頼して見守る（待つ）ことがなかなかできないことも多いようです。実際のところ、子どもへの不安や不信が強まれば強まるほど、子どもへの関わりが管理的になったり、過干渉になってしまうことが多いものです。結果として、少年期の子どもが、将来のためにといいことで、少年らしい生活を犠牲にされたり、萎縮させられてしまうことがあれば、その方が問題だと思います。何故ならば、この頃の子どもは少年期の生活を堪能することによって、それを糧としてはじめて次の思春期に挑むということが可能になるからです。

安心や信頼を築くためのキーワードとしては、「話を聞く」「待つ」「認める」「当てにする」「比べない」失敗を認めるなどが重要になると思います。

二つ目は、「子どものために」や「良いことと思って」していることが、本当に子どものためになっているのかどうかを、「時々立ち止まり、振り返ってみる」ことだと思います。例えば、「子どもの生活が宛い扶持の生活（上げ膳据え膳の生活）やホテル生活のようになっていないか」「子どもに肩身の狭い思いをさせたくないとして子どもの要求を安易に満たしていないか」「失敗を心配する余り子どもの先回りをしていないか」等様々ではないかと思えます。

観点を変えて言うならば、親が子どもに自律・自立能力を身につけて欲しいと願っているのであれば、上に述べたような事柄が果たして子どものための働きかけ、環境づくりと言えるのかどうか問われているということです。そうした問いを自らに課すことも、親として引き受けるべき課題になっていくのではないのでしょうか。

これらのことを念頭において、子育てに当たっていきたいものです。





平成15年度家庭教育子育て支援推進事業「家庭教育資料作成委員会」委員名簿

氏名	所属・職名等	分野
遠藤 謙吉	元 花巻教育事務所 生涯学習推進員	社会教育
大西 淳子	花巻市立若葉小学校 教諭	学校教育
小水内 邦子	盛岡市教育委員会生涯学習スポーツ課 社会教育指導員	家庭教育
武田 京子	岩手大学教育学部 助教授	家庭教育
土岐 幸子	前 花巻市立宮野目小学校 校長	学校教育
◎新妻 二男	岩手大学教育学部 助教授	家庭教育
福岡 悦子	岩手日報社 客員論説委員	母親
藤原 安生	県環境生活部青少年・男女共同参画課 青少年主査	社会教育
前多 治雄	県立中央病院 小児科長	医学
山影 詠子	花巻市立若葉小学校 養護教諭	保健

(◎委員長)

(五十音順)

平成15年度家庭教育子育て支援推進事業

いわてっ子ばんざい

(10歳児編)

発行日 平成16年2月20日

発行 岩手県立生涯学習推進センター
花巻市北湯口第2地割82番地13
TEL 0198-27-4555

『平成15年度家庭教育子育て支援推進事業「いわてっ子ばんざい」』の一部訂正について

正 誤 表

掲載内容の一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

掲載ページ	誤	正
もくじ・写真提供	着音機	蓋音機
P 1 9	地球の結い	地域の結い
P 2 1	岩手県立児童子どもの森	岩手県立児童館いわて子どもの森
P 2 1	県北青少年の家 住所 61-3	県北青少年の家 住所 61-35
P 2 1	高田松原野外活動センター 搜索活動	高田松原野外活動センター 創作活動
P 2 2	雫石町営クロスカントリースキー場 電話 019-659-2211	雫石町営クロスカントリースキー場 電話 019-695-2211
P 2 2	石鳥谷町 農業伝承園	石鳥谷町 農業伝承館
P 2 2	いちのせき健康の森 祭時	いちのせき健康の森 祭時
P 2 2	きらら根室山天文台	きらら室根山天文台
P 2 2	二戸市ショッピングセンター	二戸市シビックセンター